

第7回渋谷区基本構想等審議会 議事概要

【日時】平成28年5月17日(火)午後3時～午後5時

【場所】渋谷ヒカリエ8階 防災センター会議室

【出席者】■委員(順不同、敬称略)

- ・ 学識経験者 : 伊香賀俊治、市川一宏、市川宏雄、神長美津子、河原和夫、為末大
- ・ 地域団体代表 : 丸山多喜子、森下利江、リー啓子、渡邊功
- ・ 公募区民 : 大西岳之、財津宜史、住井美由紀

■ 区

- ・ 幹事団 : 澤田副区長、黒柳危機管理対策部長、菅原区民部長、船本文化・都市交流担当部長、秋葉都市整備部長、須藤渋谷駅周辺整備担当部長、大澤土木清掃部長、藤野清掃担当部長
- ・ 事務局 : 星野経営企画部長、佐藤経営企画課長、山崎基本構想担当課長
- ・ オブザーバー : 北本英光(株)電通ダイバーシティ・ラボ チーフコミュニケーションデザイナー

【会議公開可否】公開

【傍聴人】9人

【会議次第】1. 審議

施策体系シートカテゴリ別検討について

2. 質疑・次回に向けた連絡等

【事前配布資料】○渋谷区基本構想等審議会第七回資料

【当日配布資料】○次第

○第6回基本構想等審議会議事概要(未定稿)

【議事要旨】

1. 審議

■事務局

本日は、お忙しいところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。第6回の議事概要を机上に置かせていただいております。この議事概要につきましては、内容をご確認いただき、ご発言の内容の趣旨が違うようなものや何か修正することがあれば、5月23日までにご連絡ください。事務局の方で修正させていただき、その後、ホームページ上に掲載いたしますので、ご了解ください。

今回も発言ができなかった場合を想定して、机にご意見シートを用意しております。よろしくお願いいたします。

■会長

それではここから進行をさせていただきます。本日は、5名の委員から欠席のご連絡をいただいております。会としては半数以上の出席でございますので有効に成立しております。

それでは、ただ今から第7回渋谷区基本構想等審議会の議事に入ることにいたします。まず本日の審議の進め方につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

それでは、ご説明いたします。基本構想は、20年を見据えて、区がどのようなまちになるかのビジョンを示すものであり、これを実現するための施策の方向性を定める長期基本計画が、本日の審議の目的でございます。この長期基本計画は、10年をその期間としております。

今月10日に、今回のテーマを事前にご審議いただく専門部会を開催し、施策の内容についてご審議いただいた内容を踏まえて、修正を加えたものが本日の資料となっております。専門部会にご出席いただいた委員の皆様改めて感謝申し上げます。

審議は、前回の審議会と同様に、施策体系シートを基に、4つのカテゴリ別に検討していくというかたちで進行させていただきます。基本的流れは、事務局からの配付資料の内容説明、その後、その内容についてご審議をいただきます。

資料の構成をご説明させていただきます。お手元のA3の資料をご覧ください。資料は、前回のご審議いただいた資料と同様の構成となります。まず、長期基本計画が実現を目指す基本構想のビジョンの方向性がどのようになるのかを確認することが前提となります。

前回原案として提示しました内容が左上、その下に、3月15日に開催された第5回審議会での議論の中でいただいた意見、それを踏まえた基本構想の方向性案をその下に示しております。さらに、右側では、長期基本計画の施策の方向性について記載しておりますので、この内容についてご意見をいただくことが今日の主眼となります。

別のカテゴリのシートの構成も同じ内容となります。説明は以上でございます。

■会長

それでは、審議に入りたいと思います。議題1「施策体系シートカテゴリ別検討について」の審議は、4枚のシートに分かれています。まずは、「防災・安全・環境・エネルギー」のシートについて、

事務局からの説明をお願いします。

(1) 施策体系シートカテゴリ別検討について

① 防災・安全・環境・エネルギー

■ 事務局

それでは引き続きご説明させていただきます。資料をご覧ください。

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会第七回資料」の「施策体系シートカテゴリ別検討 防災・安全・環境・エネルギー」を説明)

■ 会長

ありがとうございます。今、事務局からあったように、専門部会でいただいたご意見が反映された資料となっております。それを踏まえて、長期基本計画のカテゴリは今後10年ということで中身を考えていくということでご意見をお願いいたします。

■ 委員

先日、2泊3日で熊本に行ってまして、ずっと関わっている石巻を經由して昨日帰ってきました。熊本は地震でかなりまだ揺れておりますし、生活再建と危機管理の両方に取り組んでいかななくてはならない特異な状況となっているかと思えます。あれだけの人口をもって、残念でしたけれども亡くなった方々が一応あの数で留まったというのは、津波と火災がなかったことがとても大きかったと思います。もしも火災が発生していたならば、もっと被害がでていた可能性があります。また、大きな商業施設の壁が随分落ちていて使い物にならない状況なので、もしも昼間に地震が起きていたらかなりの死傷者が出たかもしれなかったのですが、震度7の地震が起きたのは夜中でしたので。現場の状況を見てきたところであります。

まず1点、状況に応じた対応が今後必要になるだろうということを申し上げます。益城町は、まち自体が壊れていて家が崩れ落ちていました。そういう所ではコミュニティというのがなかなか成り立たないんです。避難をどうするのかといった適応がケースバイケースであるということを先ず考えることが必要であると思えます。

石巻では、「我が家の災害対応ワークブック」というものがありまして、1ページ目から喫緊の対応内容について記載されておりました。例えば、何を備えたら良いか、どこに逃げれば良いのか。それを東京に戻ってきて関係者にお伝えしましたら、昨日地震があったにもかかわらず、まだ大丈夫だろうとあまり関心が高くないんです。1回経験した者としては、何を備えれば良いか、どこへ逃げるのか、という準備教育をどの程度普及させられるかによって、かなり被災することを防ぐこともできるし、逃げ場所も確保することよってもだいぶ防災できることだと思います。つまり、その意識をどう醸成しているかが地域防災力の向上の鍵になるんじゃないかと思いました。住民ひとりひとりが自覚して対応していかないと、地震が起こると危機的な状況になるので、その点が重要だと思います。もう少し踏み込んだどうやって普及させていくかや防災と共に災害対応ということをご理解いただくことが必要であると思えます。

2点目は、1つ目の柱の「③帰宅困難者対策の推進」とありますけども、帰宅困難者というのは渋

谷区民だけではなくて、渋谷を通過して帰る方もいらっしゃれば渋谷への来街者もいらっしゃいます。例えば、千代田区は人口が少ないが、すごく多くの昼間人口があつたりします。帰宅困難者に関しては、渋谷区と都、神奈川県とか少し対象とする領域を広くしていくことが必要ではないでしょうか。渋谷を横切っていく人が沢山いらっしゃると思うので、そこがどうなっているのかお聞きしたいと思います。

3点目は、2つ目の柱の「①区民や来街者の安全・安心の確保」の黒ポチの3つ目に、「地域の見守りによる防犯の推進」と書いてありましたが、これはとても大事なことで、まちづくりでは普段から会話があつてつながりがあるところは、犯罪の発生率が低いです。落書き等々あつて無秩序になっているところは、犯罪の発生率が高いというのがございます。杉並区の事例をご紹介しますと、空き巣が立て続けに3件あつた地域への対策として、まず挨拶運動から始め、見回り活動も行うといったコミュニティづくりに重点を置きました。そうしたら、犯罪の発生率が急に減つたんです。そういう実証もありますので、この「地域の見守りによる防犯の推進」は地域のまちづくりとして、地域のネットワークをつくることによって、犯罪者が危機感を抱き「通報される可能性がある」と思えば、いなくなると一般的に言われるので、そういった地道なまちづくりが必要であると思われま

■会長

ありがとうございます。何か事務局の方からありませんか。よろしいですか。他にはいかがでしょうか。

■委員

3つ目の柱の「①分別の徹底と3Rの促進」で、事業系ごみ対策の強化とかをもう少し踏み込んだ記載をしてはどうですか。北欧で、民間にごみ事業を委託すると、結果としてごみにかかる費用は1/3になったという例を専門部会で話したことがあつたと思いますが、全部に必要なことをやっていくと、恐らく渋谷区の支払うコストが税収より多くなってしまうのではないかという印象があります。やらなければいけないことはあると思うのですけれども、民間の力でできることも沢山あるのではないかと思います。ここは譲れない、ここは外注でも良さそう、若しくは何か実験的にベンチャーの会社等がよりコストを安くしてくれそうといったものが、含まれているのではないかなと思います。例えば、ごみ対策は、行政サービスのICT活用をしたベンチャー企業の促進という言葉を入れて、将来的にコストを安くしていくという方向性を見せても良いのではと思いました。

■会長

これからの行政にどれくらい民間の力を入れるかというのは、全体に係ってくることで、それを踏まえた上で小口にどうなるかという視点はあるかと思います。できればこれから色々なテーマについての検討がある中で、全体では何があるかを、どこかで謳つた方が良いでしょう。今後の展開について、今みたいな話が出てくると理解したいと思います。確かに分かる範囲で盛り込むことはある。今のご指摘の場合は、事業系ごみ対策の強化プラスコスト削減などが記載されていれば恐らく解決すると思います。

■委員

1つ目の柱の「②災害に強いまちづくりの推進」で、10個くらい項目ありますが、災害時の社会的弱者、要介護者や難病患者、障害者、精神障害者、といった方々への対策はどの項目で読めるのですか。黒ポチの最後の「総合的な防犯対策の推進」で読めるのなら結構なんです。あとは黒ポチの8つ目の「食品・生活必需品等（ペット用含む）の備蓄の充実」がありますけども、難病患者向けの特殊な食事とかアトピー患者向けの食事もそうですが、そういう特殊なケースもありますので、どこかで読めれば良いのですが、もしも発想として抜けているのであれば追加した方が良いのではないかなと思います。

■会長

ありがとうございます。議論をしてきてわかるように、色々な分野にまたがっていることがいっぱいあって、どちらに入れるか判断する作業は必要です。今のご指摘でいうと、具体的な福祉系に入るのか判断しなくてはならないですが、その総合的な対策の中身がなにかによるので、そのあたりも忘れず入れておくことかと思えます。

■委員

前回の専門部会を欠席したのですが、その後加えられたキーワードがあると最初のご説明であったところに関してです。3つ目の柱の「②低炭素型都市の実現」の黒ポチ3つ目に「地域冷暖房等」という言葉が入ったのですが、これだと矮小化されてしまいます。電気を配るというのをカタカナで表現すると、「スマートエネルギーネットワークの構築」となります。最近、これは重要視されていて、この内容についてご説明すると、特に震災時には系統電力が止まってしまうけれども、例えば中圧ガスは止まらずに済んで、東日本大震災の時も六本木ヒルズに入居している企業のBCPが確保できたりと、ガスで発電して熱も作るというネットワークづくりがどんどん増えています。言葉として使うのであれば「スマートエネルギーネットワーク」という新しい言葉に代えたほうが良いと思います。「地域冷暖房」というと、かなり旧式で電気を配らないものと読み取れてしまうというのが一点です。

それと、柱の表現が「環境未来都市」というキーワードになったのですが、内閣官房で進めている環境未来都市と同じ用語だとすると、低炭素もそうだし、色々なものをひっくるめた用語として使われています。渋谷区として使う場合に、内閣府の定義に完全に乗っかるのであれば、循環型社会も混合した用語として使われているので、用語の定義を整理された方が良いかなと思いました。

■会長

「環境未来都市」というのは国でやっているのだから、整合性を意識したほうが良いというご指摘ですね。もう少し具体化するか、渋谷語にするかはご検討ください。あと、用語として「スマートエネルギーネットワーク」が最も旬な言葉なので、こういう「地域冷暖房」みたいな古い言葉は使わないほうが良いと思います。

■委員

1つ目の柱の「①地域防災力の向上」のところで、学校教育に係ることかと思いますが、中学生は災害時に戦力として、動けるように訓練をしているので、防災教育という部分でどこかに記載があると良いかなと思います。また、うちの町内で中学生の防災訓練をやった時に、防災倉庫がどこにあるのかと、その防災倉庫の鍵は町会長が持っているということを皆さん知りませんでした。震災時に火災が起きた場合、まず町会長の家へ行かないといけないということがあって、町会長を助けに行ってから防災倉庫の鍵を持って、2基ポンプ持って現場に行く、ということまでやらないと実際に震災のときに火災が起きた場合、先ほど申し上げた実態を知っているか知らないかで大きい。防災教育か、地域の力の部分で入れていただくと、まちの実務的に生きるかなというのがありました。

あと、3つ目の柱の①なんですけれども、家族の意識改革や食品ロスの削減が良いということと、取り組まなければいけないことなんだなとわかるのですが、それが何なのかと。食品ロスも教育に係ってくるかもしれないが、例えばベルマークのようなわかりやすい取り組みによるメリットを提示できると、例えば飲食店で全て食品ロスが推進しているからビニール袋を発給するとか、応援をしますとか、そういのを括弧書きで記載することで、応援者を探せればなと思いました。ごみの部分は、良いことは分かるのですけれども、だからこういうふうにやっていきたいと思いますと具体的に提示すると、家族でも参加しやすいのかなと思いました。

■会長

ありがとうございました。他にどなたかいかがですか。

■委員

会長にもご相談したんですけども、循環型社会をここに位置づけるには大きすぎるテーマかもしれませんね。全体の総合的な部分に盛り込むか検討していただきたい。先ほど委員もおっしゃったように、個別の中に位置づけられていると違和感がありますので、用語を精査なさった方がよろしいかと思いますので、委員がおっしゃったことに対して賛成ということでお伝えしたいと思います。

■会長

環境・エネルギーは内容を圧縮してしまっていて、いろんなことをやらないといけないという事情もあってこうなっているんです。言葉としては「環境未来都市」もあるけど「環境共生都市」もあるので、上手く選んでいくということかと思いますが中身も含め考えていくと。あと災害を扱っていくと細くなる傾向があるので「②災害に強いまちづくりの推進」の中身は細かい内容になってきています。災害は4つの対応があって、減災、事前の準備、応急対応、復旧復興と4段階あるので、その各々全部に対応があるんです。これを思いついたままに盛り込むとキリがなくなってしまうので、もう一回交通整理してください。減災なのか、事前準備なのか。事前準備というのは、訓練も含まれていて、先ほどのご指摘にあった中学生の訓練も含まれている。応急対応というのは発災した後どうするかという話です。強いて言うなら、帰宅困難者につながっていると。復旧復興は発災後の対策なので、普通はあまりこういう所には書きません。このように区分けにしていくと、もう少し中身が整理されるかもしれないなということがあります。

先ほど委員が伺った熊本地震の話は、危機管理の分野から見ると過去に例がなかったことが2つ起きています。1つは、我々の常識では余震と本震とあって、普通は1回来たらその後は絶対に小さいということになっている。これは歴史的にそうなっているが、今回は例外的に後が大きかったので、気象庁が名前を変えて前震を本震に変えたという初めてのことが起きました。これは災害の歴史を変えた大きなテーマです。これはこのまちづくりには関係ないと思いますが。もう1つは、建築基準法は日本が世界で一番厳しいのだけれども、今回はそれを守っていても壊れたものがあつた理由があつて、何回も揺さぶられるとヒビが入ってきて、結局何回目かに壊れてしまうということもわかつたので、今回の震災はかなり災害においては新しいテーマが出てきました。災害というのは、災害のたびに新しい事が起こり新しい対応をするという繰り返しであるので、あまり詳細に記載しても対応できないこともあるので、そのことを頭に入れながら作っていくという作業だと思います。流れとしては、一般的には「自助・共助・公助」という三つの分類に、渋谷区は「近助」を加えたように、先ほども申し上げた4段階の「減災・事前準備・応急対応・復旧復興」に渋谷区はこういう解釈をした、と入れれば良いので、交通整理しておけば良いと思います。最後の「環境・エネルギー」は詰め込んだので、かなり辛いなという印象ですので、ご理解いただける範囲でまとめ、また委員と相談したあと決めていくということになるかと思ひます。

他にどなたかご意見はないでしょうか。また後で戻りますので、まずこの1つ目のテーマは終えまして、次は2つ目の「空間とコミュニティのデザイン」、このシートについて事務局から説明をお願いします。

②空間とコミュニティのデザイン

■事務局

それでは、「空間とコミュニティのデザイン」の内容について話させていただきます。

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会第七回資料」の「施策体系シートカテゴリ別検討 空間とコミュニティのデザイン」を説明)

■会長

ありがとうございました。それでは、これにつきましてご意見をお願いします。

■委員

先ほどの防災の話や、高齢化社会になってきた時の対応の話で、地域のつながりという話がよく出てきていたので、結構重要なんじゃないかなという気がしています。つながりと言ってもはっきりと見えるものじゃなく、ご近所付き合いみたいなもので、柱の2つ目の「①人と人とのつながりができる空間づくり」が一番近いのかなという気がしてまして、なにか具体的な施策というか、場の整備だけではなく、もう少しソフトっぽいものが入っても良いのかなという気がしています。黒ポチの3つ目の「コミュニティイベント」で良いんですかね。スポーツの立場から言うので、これが良いという訳ではないのですが、ロンドンオリンピックが終わって地元の方にいろんな話を聞いたときに、健康になったという話はなかったらしいのですけれども、一番大きかったのは地域の人との運動会を連発で行ったみたいで、地域の中にコミュニティができ、それが結局防犯の観点とか、防災の観点でプラスになったのではないかという声が多かったみたいなんです。それで、地域が抱える課題をみんなで

解決するようなコミュニティができる仕組みづくりというのが大切なのかと思いました。あまり具体的な答えではないのですが、具体的に言うと、地域のコミュニティイベントの実施がすごく重要じゃないかという気がして、駅伝などのイベントでみんなをつなげていくことを具体的に実施するための言葉があると良いのかなと思いました。

■委員

人と人のつながりの部分の特徴として、上下関係ではないですが、学校の先輩と後輩という関係で地域というのはつながっていたり、またその子供という関係もあります。2つ目の柱の①の黒ポチ1つ目に、発信できる場の整備とあり、校庭を開放して同窓会で集まった時に意外と知らないけれども、保護者同士が同じ中学校もしくは同じ小学校だった、とってつながることがあります。このように、人と人のつながりというのは学んできた場でのつながりというものが実はすごく強いので、場所の整備が学校であったり、そこが地域なのかはわかりませんが、そういうのを載せていただくと、どういつながりかわかりやすいかなと感じました。

■会長

ありがとうございました。他にどなたかいかがでしょうか。

■委員

今の話に関連するのですが、「②コミュニティを育む住生活環境の整備」で、「住生活環境の整備」としてひとつの括りになっているのですが、実際は生活環境全般との係わりが多い。例えば、地元の商店街のコミュニティの役割は大きいと思うのですが、お年寄りでも安心して商店街を歩けるような生活環境づくりなど、ということも大切なんですけれども、校庭の開放とか、地域活動をどのように盛り上げていってコミュニティを育むか、という切り口の方がまとまりやすいのではというのが一点です。

それから4つ目の柱の「まちづくり情報の発信によるまちの活性化の推進」ですけれども、もちろん大事なテーマではあるのですが、エリアマネジメントの活動の中で取り組むべきテーマでもあるので、これだけ大項目で挙げてしまって良いのかが気になったところです。

■会長

ありがとうございました。エリアマネジメントは1つ目の柱の「②特徴を活かした地域の整備」にあって、今の話は4つ目の柱の「①まちづくり情報の『見える化』推進」に該当します。まちづくり情報の発信というのは、複雑なテーマになっていて、エリアマネジメントの活動の中に入っています。なぜ「まちづくり情報の発信によるまちの活性化の見える化」は独立させたのか、その背景は何か等、事務局の方からありますか。

■事務局

まちの情報というのが、実際にどのように変化していくのかソフトとして見えるようにすることで、今後のまちづくりの情報提供の面が非常に大きな利点として扱えるのではないかと、これ

から渋谷区としてソフトを開発して、様々な場面で提供していくという方向性だったので、これは是非、今後の渋谷区の特徴として位置づけ、単独の項目として挙げたという背景でございます。

■会長

恐らく、まちづくりということだけではなく、まちの運営といった包括的なテーマになりますね。ICTが何に使えるかと。まちづくりとまちの運営と、あるいは人々が何らかの魅力を感じる対応といった包括的なことに、いかに情報が使えるかがテーマとなる。まちづくりかどうかはご検討ください。包括的かなという気がします。そうすると1つ目の柱の②のエリマネとの関係をどうするかもあるので、それも含めて検討いただくということだと思います。補足はありますか。

■事務局

エリマネとしての仕事もあるのではないかと委員からのご指摘はおっしゃるとおりでもありませんけれども、現場ではエリマネの協議会が渋谷駅の中心部に1つございますけれども、そこで渋谷区全域の情報を発信するのは違うのかなと思います。また、もう1つ考えられるのが、ロンドンのダッシュボードみたいな、まちづくりではなくまちの情報を出すという取り組みです。まちというのは渋谷区全域の情報を出すという意味では、リアルタイムに情報を見れたら、それはひとつの意味があるのかなと。それからもう1つ、シンガポールのシティギャラリーみたいな、発信の仕方もあります。渋谷らしい発信の仕方というのは色々考えるとところがあるのではないかと所管は考えています。

■会長

ありがとうございます。今の話の延長にあるのは、区の考えだけでも、外国人が増えて国際化が進む中でどうやってまちを運営するか、という話が渋谷区はあまり入ってなくて、区によってはそればかりのところもあります。魅力的な空間とコミュニティを作って運営するならば、区内外と言っているが世界からも人が集まってきており、既に原宿ではいろんな国籍の人が入ってきていて、その状況の中でどうするかという話もきっと視点として入ってくると、もう少し項目が増えるのかなと思います。また、4つ目の柱もコンテンツをどう出すかというのがあって、渋谷区のどこに行っても誰が見ても何か分かるみたいなコンテンツを発信するよ、というのはあるに決まっているので、もうちょっと広く使えるのではないかとことであります。もう一点、2つ目の柱の「③人々がつどい、憩いの生まれる空間づくり」で、「地域の特性にあった良好な都市景観」と書かれているのだけでも、できれば地域の特性にあった「魅力的な」としてもらおうと良い。「良好」だと、悪いものを良くするためなのかと感じます。もっと発信するような雰囲気溢れてほしいというのが印象です。

■委員

前後がわかってないのですが、「観光」は入っているのですでしたっけ。あまり重要ではないなら構わないのですが、もし重要なのであれば、渋谷区を世界に対してどういうまちだと見せていくかということを入れてはどうですか。先週、ブータンの方が来られて、渋谷と台東区のどこかの場所に行きたいと仰ってました。その2つがブータンでは広がっているみたいで、「渋谷」という言葉が世界でニューヨークやパリのように認識させるか、というのを戦略的に発信するという記載があって

も良いかなと思いました。どこかに記載があるのかもしれないですけども、もしやるとしたら、「まちづくり情報の『見える化』推進」がネットを通じて世界に発信すると考えると、そういう役割もあるのかなと思っています。

■委員

先週、英国保健省の方を一週間アテンドしていたのですが、この方々は「健康的なまちが健康的な人をつくる」というプログラムをイギリスで進めている担当者なんですが、お医者さんと都市計画の専門家がチームになって動かしています。記載されている「空間とコミュニティのデザイン」というのは、都市計画側の視点での書きぶりになっていて、前回健康側の議論があったと思うのですが、それをつなぎ合わせる役目として、健康側を意識した方が良いのではと思います。歩きやすい、安心して歩けるというキーワードは確かに書いてありますが、例えば、前回、気持ちよく歩いて買い物も楽しめるのが渋谷の魅力だ、みたいな話があったと思うのですが、それが健康につながるというような、つなぎをここでも意識した方が良いかなと思ったのが一点です。

それともう1つ、国の上位計画としては、例えば「健康日本 21（第二次）」という厚労省の計画の中で、歩く、活動量を増やすには社会環境整備や住環境整備が大事だということが入っています。そういうことを踏まえて、明文化して「健康日本 21」と書かなくても良いとは思いますが、渋谷らしい計画としてはどうでしょうか。背景に上位計画を押さえておくべきかなと。それから、国交省は住生活基本計画の見直しをしていて、閣議決定されたところですが、そこにも健康という要素が初めて入ったということもあったので、上位計画を踏まえた上での渋谷らしい計画、と言う方がスマートに見えました。

最後に一点ですが、そのあたりを束ねるキーワードとして使われているのが、スマートウェルネスコミュニティとか、スマートウェルネスシティ、スマートウェルネス住宅、いずれも政府が盛んに使っているキーワードではあります。同じキーワードを使うのが良いのかどうかは議論がいろいろありますが、そういうまとめをすると、まとまりが良くなるかと思います。

■会長

ありがとうございます。他にどなたかいかがですか。

■委員

全体的なところなのですが、2つ目の柱の「コミュニティが育つまちづくりの推進」で「空間づくり」とありますけれども、なんの空間なのかを整理することが必要かなと。例えば、場所なのか人なのか、人それぞれのネットワークを空間と定義し、地縁型の係わりなのか市民社会型の係わりなのか。もう1つは、活動の中での係わりなのか、更に情報を知らせるための係わりなのか。具体的に出せなくても良いですけども、こういう視点でアプローチするということを整理すると、もう少しまとまってきて、更に具体的に良くなるかと思いました。

2番目は、「コミュニティが育つまちづくりの推進」にコーディネーターと出てくるのですが、魅力を引き出すコーディネーター、コミュニティづくりのコーディネーター、といくつか記載があるんですけども、コーディネーターとは意外にいろんな言い方があるんですね。そうすると、どこの

コーディネーターなのか分けて考え、考察するのが難しい場合がでてくる。福祉だと地域福祉コーディネーターだとか、生活支援コーディネーター、住まいのコーディネーターなどいろいろ出てくるので、整理なされた方が良いかと思います。

最後になりますけれども、「誰もがめぐり歩いて楽しい魅力あるまちの基盤整備」の「②特徴を活かした地域の整備」の黒ポチ3つ目に、「地域ごとの特性、地形を活かしたエリアマネジメント」という言葉が出てきます。地域特性ということであれば、エリアマネジメントを使うとどういう位置づけになるのか。特に、セカンドピープル、サードピープルとか、いろんな概念が出てきますけれども、誰を対象にするかによって言葉の使い方を検討しておいた方が良いかと思います。デザインですから、イメージはいろいろと出てくるでしょうけれども、渋谷区やこの審議会の委員はわかるかもしれないけど、一般的にはわからないという議論にならないように、例えばエリアマネジメントのところはいろいろと使われる言葉だと思いますので、言葉を含めてご検討ください。

■会長

ありがとうございました。

「誰もがめぐり歩いて楽しい魅力あるまち」と書いてあるのですが、先週パリに行つての感想ですが、パリはどこに行つても人がいっぱい歩いていて、わざわざめぐり歩いてと言わなくても歩いているんです。なぜ歩いているかという、人は目的があるから歩いていて、もちろん目的がない散歩もあるけれども、どこに行きたいとか、行くことで何かを発見をする。パリの場合は歴史のものが多くはありますが、歴史に限らず新しいものでも、行きたい目的があるから歩いているという視点から言うと、ここに書いているのは「とにかく歩きなさい」みたいな話ですね。むしろ、魅力あるものがまちに散りばめられているから歩くのだという話がセットになっていないと、歩けといわれても歩かないし、歩ける人は歩くんです。その辺の組み合わせをご検討ください。

あともう一点、必ず出てくるのはユニバーサルデザインです。一般的には、例えば、老人だとか身体障害者だとかに優しいまちとか書いてあるのだけれども、記載がないので書いておいた方が良いのでは。ここに記載すべきなのか他のところなのかはわかりませんが、セットになっているので、魅力あるまちというのはみんなにとってということであれば、歩行困難な方にとっても楽しくとした方が良いかと思います。人間は目的があるので歩きます。行きたい場所が書かれていないと歩かないのではないですか。そのあたりを上手く入れてもらうと良いのでは。渋谷の場合は、原宿も恵比寿もあるし、過去のものだけではなくても、これからのものもいっぱいあり、その組み合わせでできているまちなので、それを上手く出していくというのをに入れていただくと良いのかなというのが印象です。

■委員

三点ほどお話しします。1点目は、1つ目の柱で、「渋谷区周辺地域のまちづくり」と「特徴を活かした地域の整備」に分けたことは非常に良いと思いました。ただ、渋谷駅周辺のことについては、誰もが分かる標示やデザインがあることによって皆さんが色々な場所に行きやすく、動きやすくなります。子供でも外国人でも分かりやすいユニバーサルデザインのようなデザイン標示があれば良いと思います。

2点目は、「②特徴を活かした地域の整備」の黒ポチ2つ目に、「渋谷区駅周辺に続く地域拠点の形

成」とありますが、何に続くのかが分かりにくいです。地域を活かす中で、地域活性化を生み出すという表現を入れていただきたいと思います。

3点目は、2つ目の柱で、「コミュニティが育つまちづくりの推進」の③に「ルールの整備」とありますが、これはおそらく都市景観を維持するためのルールという意味だと思うので、私としてはソフト面のルール作りを入れていただきたいと思います。渋谷では、渋谷のルールを誰もが守って生活しよう、参加しようというような、世界に発信できるような「渋谷ルール」を表現すると良いと思います。

■会長

ありがとうございます。今の話は重要で、渋谷ルールを早く作らなくてはならない。渋谷に来たらこれを守る、ということの人々が無意識にわかるような仕組みをつくらないと、あと10年以内には相当国際化が進むので、ルールは不可欠です。

他にどなたか意見はありますか。今ご指摘があった「渋谷駅周辺に続く」、というのはナンセンスなので、ご検討ください。

続きまして、3つ目のテーマに入ります。事務局より、ご説明をお願いいたします。

③文化(エンタテインメント)

■事務局

それではご説明させていただきます。

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会第七回資料」の「施策体系シートカテゴリ別検討 文化(エンタテインメント)」を説明)

■会長

ありがとうございました。渋谷文化という渋谷ならではのものをどのように取り組んでいくかをキーに考えていただく。渋谷文化でも良いし渋谷カルチャーでも良いし、長ければ「シブカル」でも良いし、渋谷ならではのことで共有していきたいと思います。是非、ご理解ください。

■委員

1つ目の柱の①の黒ポチ2つ目に「ファッション・音楽などの分野に携わるアーティストへの支援」とあるが、文化に携わっている人たちがどれくらい住んでいるのかが全てではないかと思う。過去に、ニューヨークかどこかの都市計画の資料を見せてもらったとき、どうやってクリエイターに住んでもらうかということが具体的に記載されていました。記載内容は忘れてしまったのですが、クリエイターに住んでもらうために必要なものをクリエイターからヒアリングしており、真面目に検討していたことに驚きました。結局、どこに住んでも活動できるのがクリエイターだと思います。そういう意味でいくと、ニューヨークとパリと渋谷とベルリンで競争が始まって、どこに住むかを彼らが選ぶ時代がきた時のことを意識して、渋谷に住んでもらうためにはどうしたら良いか考え始めるという一文があると良いと思います。現状の記載だと、今住んでいる人たちへの支援だと思えるのだが、今住んでいる人たちも、例えばシンガポールなど他国に移住を始めていると思います。一方で、日本に移住し

て来られる方々をどのように迎え入れるか。国籍が関係ない世界だと思うので、その時にどのような支援や場所を作ってあげれば、来て、住んで、活動していただけるか。恐らく、アーティストへの支援に加筆することになるのだと思うが、そういうものが何となく盛り込まれると良いと思います。

■会長

ありがとうございます。既にファッション文化関係の住人が多いが、相互にどうやって交流させる場をどう作るか、というのが渋谷にとっての課題です。私が係わった東京都宮下町の再開発でも、ファッション文化人を交流させたいというので、シェアハウスのようなものを作り、そういう人が住んでお互い情報交換が出来るような場所を作るという作業をしました。それは1つの例で、シェアリングエコノミーが進む中でシェアリングスペースというか、接触する機会をどう作るかがこれからの課題です。少なくとも行政ができるのは、場を提供すること。お金が付く、付かないはあるが、背後で支援する。最低限必要なのはそこにあると認識しています。

■委員

開放に関することがあれば良いのではと思いました。アーティスト特区というか、例えば映画を撮る時に比較的申請を楽にする、などと近いイメージで、クリエイターやアーティストとして認定されればこの場所は自由に使って良いとか、スポーツならアスリートにグラウンドを自由に使って良いなどの許可をしてもらおうといった優遇措置があると嬉しいです。ある程度持っているものをルール上で開放してあげて、作品をつくっていくというのがあって良いと思います。

■会長

スペースを提供している国もあります。それをどうするかということです。

■委員

どのようにクリエイティブクラスの人たちに住んでもらうかという観点だが、宮下町の話が出ましたが、行政である都は土地を提供し、民間ではリビングシブヤという企画コンペを行っています。宮下町の計画に、総合的な賃貸住宅を何十個か整備して、お互いが切磋琢磨できるような共用スペースを設けるような企画を謳っています。文化的活動に何らか関係する方々が渋谷区民になっていくので、そういう方々が活動できる場が渋谷に用意されると良いと思います。行政は元々あった都営住宅の土地を上手く民間活用させながら機運を盛り上げていく、というように良いバランスが取れています。

■会長

ほかにどなたか意見はありますか。シブカルをどのように世界に発信するかというテーマだと思います。このくらいのコンテンツがあればできるのではないかと思うが、どこまで出来るかです。

■委員

以前、地域福祉活動計画に関わったとき、渋谷には世界を見ているNGOやNPOが多いという議論がありました。地域をよく見て、その方たちが集まっているなら、ネットワークが組み合わせられ

るような場の提供や機会の提供をすることによって、例えばNPOのネットワークを作るとか、場を提供することによってより具体的な展開が出来るかと思います。

二点目ですが、文化関係者に集まっていただくにはどのような規制緩和をすれば良いかということです。例えば、デザイナーが世界から集まって議論をしている場合などに、民間と協力しつつ、どういった条件にしたら集まりやすいのか。また、福祉機器の商品開発をすることで、それがパラリンピックの関係として大きな可能性を持っているのだとするならば、そういうクリエイターがどうしたら来てくれるのかイメージがつかないです。福祉関係だとわかるのですが。クリエイターが来て、過ごしてもらうにはどのような規制緩和をしたら良いか出てくると良いと思います。この部分だと、それぞれのエンタテインメントシティなど色々あるが、もっと世界を引き込むような、条件は何かあると良いと思います。そこが見えないので尋ねました。

■会長

第5回審議会で、ライブハウスについて検討する場合、風営法などの規制緩和を考えるなど色々な課題があり、シブカルを推進する中で特区も含めて何か規制緩和措置を行うなど色々あると思います。

■委員

同性パートナー条例が比較的影響が大きいものではないですか。

■会長

前進的であること。それから、シブカル発信について一生懸命考えていますが、海外の人がたくさん渋谷に住み始めたら、その人たちに何かをしてもらうという作業が本当は必要です。移民が多いエリア、コミュニティはキャラバンといって、色々な民族が独自のフェスティバルを行います。トロントなどはずっと取り組んでいます。渋谷もいずれは他民族の人たちが住み始めたら、渋谷カルチャーと海外の色々な文化との交流を図る中で渋谷の価値を高める取り組みが必要になると思います。ここに記載してあるのは、国際文化交流の推進で、児童・生徒の派遣も良いが、現状で渋谷区に住んでいる外国人を使えば良いという発想で考えれば、渋谷にはかなり素材があります。そういう視点での活動も盛り込んで良いかもしれません。結果的にシブカルが更に世界に伝わるというように、その組み合わせはここに入って行かなければならない。

■委員

二点ほどあります。まず、1点目が「国際化」というカテゴリが以前はあったはずですが、それはどこに行ったのですか。「文化（エンタテインメント）」に入ってくるのですか。

■事務局

「国際化」については、全てのカテゴリに係るので、独立したテーマにはしなかったのですが、「文化（エンタテインメント）」と「産業振興」などがメインになるかと考えております。

■委員

それであれば「シブヤかわいい」の文化も良いですが、「③文化遺産の保全と継承」で、アーティストが渋谷のスクランブル交差点で活動を行うのは魅力的かもしれないんですが、渋谷にある古いものを使い、何か新しいものが生まれるのではないのでしょうか。伝統文化の継承が国際化でも良いし、そこにもっとスポットを当てて広げていくと良いのではないかと思います。「シブヤかわいい」イコール原宿ではなく、渋谷イコール「お寺かわいい」という方もいると思うし、そういった変わった方が出てくるように、文化遺産のところを堅苦しくせず、国際化という視点と「かわいい」を上手く融合させて広げてはどうでしょうか。文化が原宿よりの話になっているように感じます。

■委員

食文化が抜けているのではないのでしょうか。例えば、色々な国の料理を美味しく食べられるレストランがあれば、人はそこを目指してくるはずで。和食の店がロンドンやニューヨークなどといった海外で増えていて、和食ももちろん魅力的ですが、海外の食事があればそれを食べに来る方もいるはずで。食文化は位置づけるのなら、「文化（エンタテインメント）」ではないのでしょうか。

■会長

「国際化」の項目がなぜ無くなったかというところ、「国際化」を1つのカテゴリとして立てると必ず出てくるのが、国際文化交流のために生徒の派遣や、姉妹都市だとかになってしまいます。「国際化」は全てに係わることなので、枠組みとして全部に係わるように変更してもらいました。今の委員の話も「国際化」と係わりがあり、様々な自治体で国際化に取り組む場合、比較的渋谷はエレガントな方ですが、他は土着的というか、地元から始まる国際化みたいな取り組みが多い傾向にあります。それは何故かと言うと、移民や外国人が住み着くと移民はまず自分の国の食べ物を提供します。つまり、食から始まる国際化もあるということです。渋谷の場合は、食ではなく渋谷カルチャーがあってから始まる国際化であり、結果的には食につながるとは思いますので、そのあたりは上手く入れたいと思います。ただ、国際化する中で何を取り上げるかというところで、渋谷の場合は例えば食でいうと、移民が住み着いてお店を開くというより、ここに来ればお客さんが来るという理由でお店を開くので、良いレベルの店が入ってくるという期待はあります。

■委員

渋谷文化の中にファッションが入っていることは渋谷の特徴として重要なことで、どんどん世界に発信していくべきだと思っています。最近もアメリカに行きましたが、アメリカの一般の方はTシャツと短パンというスタイルが多く、あまりファッションに特徴がないように感じます。ファッションに関してはフランスが優れていると言われてきましたが、今や渋谷の文化である原宿のかわいいなどのように非常に優れていると思います。You Tubeなどで配信すれば一瞬で世界に広まるので、発信方法を検討しながら、渋谷として何を発信すべきか、何が注目されるかをもう一度考えてそこを推進すべきだと思います。

■委員

記載されている渋谷カルチャーの支援もすごく良いことだと思いますが、シブカルや渋谷カルチャ

ーのようなものが前面に広がれば良いのではないかとおもいます。例えば、練馬出身のミュージシャンがアピールのために渋谷に来て、あなたの音楽は渋谷カルチャーであると判子を押されてしまうと、「僕は練馬出身のミュージシャンだ」となるという話から、渋谷は色々なアーティストが生み出す場所であって、渋谷で起きている文化活動の全てを「渋谷カルチャー」としてしまうと、反発する人達が出てくるかもしれません。ただ、世界中の人たちを受け入れるべきであるので、それをどこまで前面に出すのかということを考えて方が良いと思います。

■会長

そうは言っても、ニューヨークのブロードウェイミュージカルは来たい人は来るが嫌な人は来ない。もし仮に渋谷カルチャーが大きくなっていったら、結局「渋谷カルチャー」としてものを語るということになります。ステージングがある渋谷カルチャーの中で自分は何ができるか、というようになってもらえば良いと思います。そこに持っていけるかどうかということだと思います。

他にはよろしいですか。それでは、続きまして次のテーマ産業振興についてお願いします。

④産業振興

■事務局

それでは、本日最後の施策シートとなります「産業振興」についてのご説明でございます。

(事務局より資料「渋谷区基本構想等審議会第七回資料」の「施策体系シートカテゴリ別検討 産業振興」を説明)

■会長

ありがとうございました。それでは「産業振興」についてのご意見をお願いします。

■委員

丸の内と渋谷の一番の違いは何かというと、丸の内は大きな企業が沢山あり、渋谷はベンチャーや新しい会社など色々なものが生まれているイメージがあります。海外と比較すると、渋谷はビジネス街とファッション街など色々なものが混ざっているのが特徴なのかと思っていたときに、シリコンバレーのような創業だけではなく、例えば行政サービスや福祉など、行政が協力しないと創業して実験が出来ないようなものを支援するようなやり方をすれば他の大都市と戦いやすいのではないかと思います。1つ目の柱の①の黒ポチ2つ目にある「創業支援の拡充」に、民間やベンチャーが自分達でできるものに支援をする必要はないが、ルールを緩和しないといけないとか、国の協力が必要なのもかもしれないが特区のようなものを作り支援するとか、高齢者の施設に高齢者向けの福祉器具のサービスを実験的にやってみようなど、そういったことを協力するということが創業支援の拡充あたりに含まれると良い気がします。

■会長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

■委員

渋谷が産業的にIT系とファッション系が集積しているのは、東京の中でも極めて特徴的な場所だと思います。働き方という観点で見ると、男性社員がネクタイを締めない産業の方が多く、ヒカリエであれば女性の就業比率が非常に高いです。働く方そのものの存在がファッションブルで、新しいライフスタイルを提案してくれるような方々が渋谷にいつも集まっています。渋谷の文化にも非常に関係のある産業集積だと思うので、縦割りではなく、観光を含めて相関関係がある中でイノベーション、ベンチャー、ファッション、ICTといった、渋谷の際立ったエッジの立った部分を更に発展させると世界の渋谷らしくなると思います。地域産業の振興の中に「③多様な働き方を支える環境整備」とあるが、女性就業者がどうすればもっと働きやすくなるかなど、国際的なビジネス環境ともマッチングしていることだと思うので、そういう点で、黒ポチの1つ目の切り口と2つ目の切り口がローカルとワールドのような内容になっているが、もっと渾然一体でも良いかと思います。

■会長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

■委員

委員が仰ったことに賛成です。文化と産業は結構重なっているところがあります。先ほども産業を集積しようと議論したように、産業振興でも福祉でも、環境でも出るという相互関係をどこかで明確にした方が良いのではないのでしょうか。それを組み合わせて渋谷であるということが大事だと思います。産業振興はかなり具体的な議論ですが、文化はかなり抽象的な議論になっていますので、合わせて具体化していく役割をもつのが産業振興だとすれば、関係性を明らかにすることが必要です。

3つ目の柱の「①消費者生活の充実」は特に留意点として一般的な議論を書いてありますが、消費でもいわゆる食品や物価の高騰を防ぐための安定性などはどこかに記載があるのですか。きちんと品物が置かれ、それをチェックすることが消費生活の充実、食生活の安定につながります。例えば、先ほど委員が被災地の議論で食物の問題を挙げていて、アレルギー食品の問題は非常に重要です。例えば、アレルギーがあるといった持病をもつ人に合った安定的な食品の提供など、アレルギーについてはこの議論ではないのですか。

■事務局

災害対策の関係で、アレルギー対応は非常に重要だということは渋谷区も考えてございます。今年度予算を新たにつけ、今備蓄している食糧を全て買い替えて、アレルギー対応の食品に変えるという施策を打ち出しております。今年度中に全ての備蓄品をアレルギー対応のものに変えることが達成されます。

■委員

日常的の中で紛れてこないでちゃんと生活できるような食の安全とかはここに入るのですか。

■事務局

消費者のことを考えるというテーマだとすれば、ここの中に取り込める課題です。

■委員

子供は色々な事故が起こります。例えば、食べてはいけないものを食べて死亡する等、それを日常的に保育園などでチェックするとともに、通常バックアップして親を支える仕組みも消費のひとつの確保としても大事であるので検討願います。

■委員

第5回審議会での議論の一番下に、ハチ公ブランドを渋谷の核にしていってはどうかとあります。熊本の場合は、くまモンは災害時に活動を自粛していましたが、活動を再開してみんなに喜ばれていました。文化の方にも係りますが、有名なデザイナーの方にハチ公の絵を描いてもらったりデザインをしてもらえば、渋谷の中で新しい産業が生まれるのではないのでしょうか。委員が仰った福祉器具にハチ公のお墨付きのようなものを付けて売り出すなどすれば、渋谷の特徴も出るかと思えます。個人的にはハチ公をキティちゃんのように売り出してほしいと思っています。

■委員

先ほど委員が仰った食の安全の件ですが、ニューヨークへ行くと必ずレストランの衛生的ランクがA、B、Cと明確になっています。ここは衛生的だからA、不衛生だからCというように。このような表示があると観光客から見てレストランに入りやすいです。ランクBなら良いがランクCは嫌だというように判断できます。規格の話になってしまうと当てはまらないとは思いますが、渋谷でもそういうランクがあると、観光客にとっても住人にとっても食の安全性という意味では非常に良いと思います。

■委員

オリンピックの時に恐らく渋谷が抱える非常に大きな問題になると思うが、喫煙できる所が多すぎると視察に来られる度に言われています。分煙を徹底的にやる街にし、店に入るときに明確に喫煙か分煙か禁煙かがハッキリわかるように、渋谷が決めたステッカーを貼ってあると、オリンピックの期間中相当な人がウロウロする時にパッと一目で分かるようにすると良いのではないのでしょうか。アジア人はあまり気にしないが、特にヨーロッパの人たちは相当気にされる印象があるので、そういったものが象徴的でわかりやすいのではないかと思いました。

■会長

ありがとうございます。千代田区は区長が言い出してまち全体を禁煙にしました。禁煙などに取り組むことができないことはないのです、どうやるかという話です。

■委員

委員から女性の就労の話がありましたが、この中には若い女性の就業支援のような記載がありません

ん。渋谷区の特徴として 20～40 歳の人が東京都内の他地域と比べて一番多いという数字が出ています。若い世代が多いということは、活気にもつながり、「産業振興」にもつながると思うので、それを支えるためにも子育て中を含めた若い女性の就業支援を入れていただけると良いと思います。

■会長

ありがとうございました。1つ目の柱の「新たなビジネス展開のための環境整備」と、次の「地域産業の振興」と「安心できる消費環境の整備」のギャップが気になります。「地域産業の振興」の「①中小企業の経営安定化」や「③多様な働き方を支える環境整備」の中身がそのままなので、ほかと同じように具体的に何か、これから 10 年間で取組む内容を書いてはどうですか。「②商店街の活性化支援」はわかりますが、「①中小企業の経営安定化」は現状の書きぶりでは何をするのかわかりません。今日出てきた話を踏まえた上で、渋谷ならではの経営安定化があるのではないのでしょうか。

先ほど委員が仰った「産業としての観光」はどう入れるのかというところです。どこかに「観光業」と入っていないと今の流れとつながらないので、「産業振興」としてハチ公を活用したりなど、包括的な渋谷ならではの「産業振興」に「観光」が絡むように入れば良いのではないのでしょうか。

■委員

ハチ公をブランドと言いますが、ハチ公がわかるのでしょうか。世代によって認知度は異なるので、もしもブランドとして出すなら特徴を出して、こういう意味があるからブランドにと、全体の基本構想と合わせながら位置づけないと浮いてしまうと思います。ハチ公をブランド化するなら全体の中でどう位置づけるかを検討しても良いのではないのでしょうか。

■委員

渋谷のゆるキャラで「あいりっすん」がいるので、ハチ公と戦ってしまうと大変かもしれません。「地域産業の振興」のところで、新たなビジネス展開の視点でいうと渋谷は新たなビジネスをやりたい人がたくさん来るまちだと思います。109のところはファッションエリアなのに御神輿が入って来たり、非常にまぜこぜという印象があります。例えば、109の前で御神輿を初めて見た人が何か新しいビジネスを始めたいとなった時、それを受け付ける窓口が渋谷区にあって、行政側が地域産業である商店街とかを支援する。今商店街はどんどん若い力や、新しいアイデアを持った方が入って来なければならないと思います。そういったアイデアを持っている人を紹介し、新たなビジネスの展開と地域産業の振興を図ってはどうでしょうか。「②商店街の活性化支援」の黒ポチ2つ目の「商店街の魅力向上のための環境整備」とあるが、商店街の人たちに魅力向上のために取り組んで頼まれても厳しいかもしれないですが、若く新しいアイデアを持った人たちを呼び商店街の魅力向上につなげたらどうでしょうか。商店街のルールの確認は、ビジネスを始める本人たちで出来ると思うので、ビジネスの展開と地域産業をつなぐ企画の窓口があると面白いと思います。

観光についてですが、観光客が自分のいる場所がわかるようなマップがあればいいのではないのでしょうか。渋谷はわかるが宮下や神泉はわからないなどに対して、わかりやすい観光案内が出来れば、恵比寿から代官山へなどの移動がしやすくなるので、広報の部分であると良いと思いました。

■会長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

■委員

観光産業について、東京都の調査によると、欧米人のナンバーワン観光地は東京の中では渋谷が一位らしいです。中国人は銀座とかに行くようですが、渋谷が日本を代表する観光スポットであるという前提だという物の見方が必要かと思います。エアビーアンドビーのような民泊も渋谷にかなり出入りしているようで、バックパッカー向けの施設等、ある程度そういったものも誘導していかななくては渋谷の役割は果たせないという感じもしました。ホテルが足りないと言われていますが、観光業界が新しい体制に流れてワールドワイドな取り組みが進められていると思うので、そういった観点での項目もひとつ必要かと思います。

■会長

ありがとうございます。観光は入れてください。ハチ公に関してですが、シンガポールのマールライオンは元々サイズが小さかったのですが、海側の開発に合わせて三倍くらい大きくバージョンアップしました。渋谷駅前が狭いので、大きなサイズのハチ公像を設置するのは難しいかもしれませんが、何かの開発に合わせてもうひとつ大きなハチ公をつくってはどうかでしょうか。

■委員

ハチ公の隣の喫煙コーナーなどが気になります。

■会長

これで4つのテーマの議論は終了しました。4つのカテゴリ全体を通して何かありますか。

■委員

私は子育てや乳幼児の保育教育の専門ですので、今日のテーマは少し距離があるかなと思いながら聞いていましたが、先ほどの議論の中で、若い世代の方々が渋谷に集まり、子育てをしながら渋谷で働くという話を伺っていたが、渋谷のまちが子育てしやすいとは思われていないのではないのでしょうか。職場と住む所と子育てする所がとても近いところで出来るのだ、というイメージを伝えることも大事だと思います。現実には、家賃が多少高いかもしれませんが、子育てが出来るというメッセージ性も持ちながら、若い企業の方々を応援したり、ファッションのまち何々ということであったり、子育てが出来るというメッセージ性も入れていただきたいと思います。

■会長

渋谷区は子育てするのに条件が良く、人が集まってきます。

■委員

渋谷は良いという噂が広まり、今は保育園が足りていない状況です。あと渋谷区はスペースが無い

ということで引越しをしてしまう人が増えています。また、家賃が高いので若者にはハードルが高いということもあります。そのあたりの支援があれば良いと思います。私も何かしたいと思い、保育園を作りたいとも思いましたが、スペースが足りず家賃支出が多く採算が合いませんでした。渋谷区にもNPO法人や保育園を作ろうとする方々への支援をよりしていただければありがたいです。

■委員

情報収集のところだが、色々な方法の情報収集があると思いますが、防災無線、ドローンの活用、FMも放送されています。広報活動や情報提供は良いのですが、災害時にそれぞれの情報が一本化されないと、どの情報が正しいのか混乱が起きることが心配です。災害時の対応はどのようなものでしょうか。

■会長

ICTをどう活用するのかという話は色々なカテゴリに係っていると思うので、コンテンツを書き込んでいただきたいと思います。その中身は事務局で考えていただき、その作業の中で質問の答えが出ると思います。

■委員

子育てに関して渋谷の特徴を追加する際に皆様に確認していただきたいことがあります。渋谷区の人口が20万人から21万8千人へと2万人近くの若い方々の転入があった理由のひとつが、渋谷区が最初に予防接種を無料化したり補助をしたことです。それから医療費が15歳まで無料なのも渋谷の非常に大きな特徴となっています。他地域から転入してきた方がびっくりするほど整備されています。他に渋谷区で誇れることはがん検診の精度が高いことです。それが若い世代の方々の転入にも貢献できると考えています。健康との絡みで考えると、子育て支援や、小さい子供を守ること、そして成人の方々の健康を守るという渋谷の特徴を強調できれば良いと思います。

■会長

ありがとうございました。大体お時間がきましたので、次回についてどうするか、事務局より説明をお願いいたします。

2. 質疑・次回に向けた連絡等

■事務局

本日も活発なご審議をありがとうございました。これまでの議論を踏まえまして、修正を加え、長期基本計画の施策の方向性確定に向けて進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

次の審議会でございますが、6月28日（火）の15時から17時に、渋谷ヒカリエ8階防災センター会議室での開催というかたちになってございますので、是非ご出席いただきまして、ご意見を賜りたいと思います。次回につきましては、これまで様々なご意見をいただいておりますので、答申案をご審議させていただきたいと考えております。答申案については、起草委員会としての小委員会を、

開催させていただきたいと考えております。その点につきましては、小委員会の委員の皆さまにご案内させていただきますので、また後日ご連絡させていただきます。

事務局からは、以上でございます。

■会長

それでは本日の会議はこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。